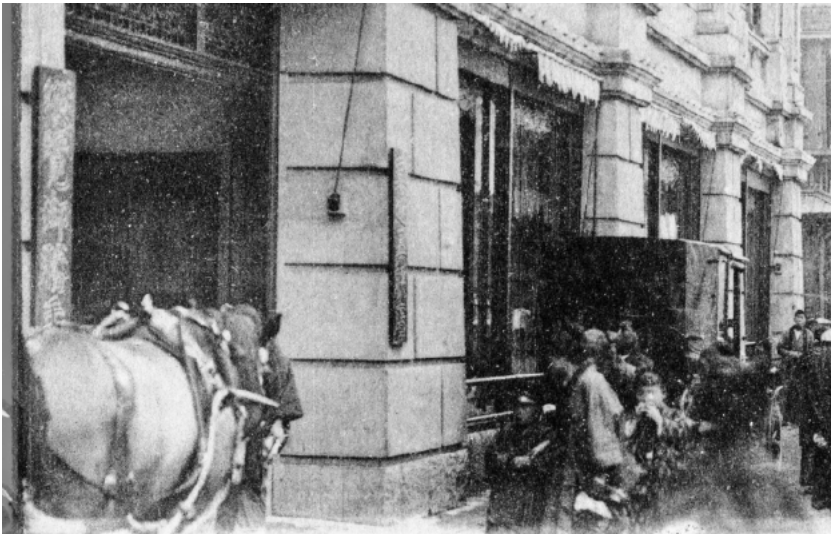
第１図　絵葉書全体



第２図　三越出入口部分

口　絵　日本橋開通記念絵葉書「駿河町より見たる富士山」（三井文庫所蔵参考図書　M二一　六―七―三〇）

「駿河町から実際に富士山は見えるのか？」という質問を受けることがしばしばある。近世の三井越後屋の絵画というと、駿河町の通りの両脇に越後屋の店舗を置き、奥に富士山を望むものが多い。江戸時代に実際にどのように見えたのか確認する手段は無いのだが、参考になるのが今回紹介する絵葉書である。

これは明治四十四年（一九一一）に、石造りの日本橋の完成を記念して作成された絵葉書の一枚である。裏面に写真が印刷されており、写真の右側を日本橋の麒麟のイラストで飾っている。この写真は、駿河町の通りの左側手前に三越呉服店（以下、三越）を置き、その奥に富士山を望む構図となっている。富士山の左側を隠している建物と、右側に建っている電柱の位置からみると、近世の絵画同様に通りの中心延長線上に富士山があるようにも見えるが判然としない。

往来を歩く人通りは比較的多く、人々は厚着をしている。建物の影は南から北に伸び、富士山は積雪しているのかやや白みがかっているようにも見える。富士山を捉えるために、空気の澄んでいる冬場の晴れた昼頃に撮影したのであろうか。いずれにせよ、実際に駿河町から富士山は見えていた、ということになる。

ところで、この写真には他にも面白い点がいくつかある。たとえば、ここには三越の駿河町通りの出入口が見えているのだが、通りに人力の荷車が走っており、出入口の左右に馬と自動車が停まっている。三越では明治三十六年（一九〇三）に商品配達用のトラック「クレメント号」を導入しており、自動車を利用した配達を始めていた。ここに映っているのが三越の社用車か判然としないものの、荷車、馬（馬車）、自動車という当時の様々な運搬手段が日本橋界隈を行き交っていた様子をうかがえる。また三越の入口には右に「三越呉服店」、左に「縦覧御勝手」の看板がかかっている（**第2図**）。明治三十七年（一九〇四）のデパートメントストア宣言で百貨店として営業を始めた三越ではショーウインドウによる商品陳列を行っていた。越後屋の「現金無掛直」から三越の「縦覧御勝手」へという看板の変化からも時代の移りかわりを垣間見られて興味深い。

（下向井　紀彦）